

「家業が布団屋で子どもの頃から手伝っていたので、ミシンを扱うのは得意なんです」と話す椅子張り職人の佐藤修一さん。高校卒業後、いったんは就職するものの、ものを作る仕事がしたいと一念発起、椅子職人を目指して専門学校に入学しました。「学校では、卒業までにどんな椅子でも修理できるよう、基本的な張り替えはもちろん、^{びょう}鋸を使った伝統的な修理も学びました」。その後、東京の会社で修業を重ね、造作家具を担当したり、数多くの椅子を一気に張り替えたりするなど、技を磨いていきました。



修理されて新しく生まれ変わった椅子

夢 ひらく！ ふくしま ストories

夢に向かって挑戦する人。地域のために伝統をつなぐ人。
福島で頑張る人たちの物語をご紹介します。

「お客さまの要望以上のリペアを目指して」

わたや佐藤

椅子張り職人 ^{さとう しゅういち} 佐藤 修一さん(湯川村)

2021年に地元である会津地域に戻り、椅子張り職人としての仕事を開始します。「会社勤めをしていた頃とは違い、お客さまから直接どんな椅子にしたいのかを聞けることは大きな強みですね。できるだけ細かく要望をお聞きした上で、さらに良くするための提案をします。出来上がった椅子を見て、『あのボロボロだった椅子がこんなに変わるなんて！』と喜ぶ姿を見ると、この仕事をやっていて良かったと思います」。

「壊れた椅子は二つと同じものがないので、毎回新しい修理に取り組み、その経験が蓄積されていくのが面白い」と話す佐藤さん。「最近、イチから自分の思い描く椅子を作ってみたくとも思うようになりました。今後は修理と並行して、オリジナルブランドの制作にも挑戦したい」と瞳を輝かせ、故郷で生まれた新たな夢に向かって歩み始めていました。

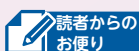


ミシン縫いは丁寧かつスピーディーに。職人技が光ります。



手際よく布を裁断していく佐藤さん。「壊れたものを自分の手できれいに直すことにやりがいを感じる」と言います。

〒湯川村浜崎字水上1409-6
☎ 0241(27)4235



読者からの
お便り

東日本大震災・原子力災害伝承館で働く横山さんの記事を読んで、職員兼語り部として活躍する姿に心を打たれました。これからも地域のために活動を続けていただきたいと思います。(30代・二本松市)

2026年 つながるふくしま
6月号 ゆめだより